



KUMAMOTO

YMCA NEWS

THE KUMAMOTO
YOUNG MEN'S
CHRISTIAN
ASSOCIATION

No.542

2017

9



畑岡 文子さん 昇汰くん(小学3年生)

年長から始めたキャンプ 今では毎月1回のベテランキャンパー

「知らない子に声をかける時はドキドキするけど、一緒に遊びたいと思うから、話しかけてみる」と語る畑岡昇汰くんの初キャンプは3年前。年長だった時の「はじめての海キャンプ」でした。以来、季節ごとにYMCAのキャンプに参加。小学1年生でメンバーになった野外活動クラブも今年で3年目となり、すっかりベテランです。



※野外活動クラブ/月1回の多彩な自然体験や体験学習を通して子どもたちの心と身体を育むプログラム。

初めての年に4回のキャンプ

昇汰くんは5歳の時、YMCAの短期スケート教室に参加しました。母親の文子さんも、子どもの頃に参加した経験が。「基礎体力を付ける良いきっかけになりますし、一人っ子なので幼稚園や学校以外の場所での友だちもできるというなと思って」そんな文子さんが、次のステップとして、考え始めたのがキャンプだったのです。

通っていた幼稚園では、毎朝のように泣いていたという昇汰くん。精神的に強くなってほしいとの思いからキャンプに送り出すことを決めました。「子ども

キャンプ後に感じる子どもの成長

を“行ってらっしゃい”と送り出す直前までは、実は私もつらかったんです」と文子さん。そんな親心をよそに、昇汰くんはその年に夏冬合わせて、なんと4回もキャンプに参加しました。「毎回、帰ってきた後には、笑顔で楽しかった話をしてくれました。それに、キャンプリーダーのお話を聞いたり、撮影してくれた写真などからも楽しそうにしていることが分かりました。成長したなと感じる時もあります。思い切って参加させて良かったと思いました。YMCAのリーダーはキャンプの専門で安心ですし、普段あまり教わらないことをキャンプで学んでいるようです。今は、昇汰のキャンプ中は自分自身の予定を入れるようにしていて、私にとっても貴重な時間になっています」と笑顔です。

“お皿、ぼくが洗うよ”にうれしい驚き

昇汰くんは、この夏、フィッシング海遊びキャンプにも参加しました。「天草に3泊して、たくさん釣りをした。さびき釣りだったから餌をかごに入れて、釣れたのは全部で4尾。3尾はアジで、もう一匹の名前は知らないけど、一緒にいたお兄ちゃんが『毒を持っている魚だよ』と教えてくれた。釣った魚はみんなでさばいて、手巻き寿司にして食べた」と、イキイキとした表情で話してくれます。



キャンプは“非日常体験”。「朝6時から釣りをした時はとてもきつかった。でも、その後のご飯はとっても美味しかった」と昇汰くん。文子さんは「以前は、調理の時は水を運ぶ役だったようですが、しばらくすると野菜を洗っている写真があって。歳を重ねるにつれて野菜の皮をむいたり、米とぎをしていたり。今では家でも“お皿、ぼくが洗うよ”と声をかけてくれるようになり、うれしい驚きもありました」と話します。昇汰くんは、野外活動をするようになって視野が広がり、頼もしくなっているようです。

YMCAキャンプには、リーダーと呼ばれるスタッフや学生ボランティアが参加します。子どもたちにとっては、優しくてもおもしろいけど、厳しいこともある存在です。昇汰くんのお気に入りにはファイヤーリーダー。「おもしろいゲームを教えてください。お友だちとは仲良くしようとか、ルールも大事だって言ってた」と昇汰くん。「大きくなったら、キャンプリーダーになってくれる?」と尋ねると、大きく頷き、リーダーとしてやってみたいキャンプは、「1泊2日のロープワークキャンプ!」と野外活動のプロのような企画を提案してくれました。「僕がもしリーダーになったら、きちんと子どもたちのお世話をして、安全を守りたい」と頼もしい答えも返ってきました。

はじめて会った時、昇汰くんはまだ年長さんだったね。小さかった昇汰くんが今では立派なYMCAキャンパーになりましたね。野外活動クラブでは、年下のお友だちのサポートもしっかりしてあげている姿がうれしかったです。これからもキャンプでいろいろなことを学んで、いつか、リーダーとして参加してくれるのを楽しみに待っているよ。昇汰くんが企画するキャンプ、一緒にやってみたいね!



ファイヤーリーダー
(職員 木村成寿)

Pickup

YMCAフィランソロピー協会
ビール列車で企業交流



ゆかた祭と同時開催!
上通YMCA
チャリティ市場

上手とれるかな?
東部YMCA
そうめん流し交流



Information 行こう 見よう 深めよう

9月・10月

楽しみながらチャリティ YMCA祭

楽しむ × チャリティ

今年も各YMCAでお祭りを開催します。内容は各YMCAで趣向を凝らしたステージ発表や食バザー、のみの市など。地域の皆さん、どなたでも来場可能です。益金は、災害復興支援、国際協力活動、地域活動、青少年育成等のために用います。

ながみね祭

ながみねファミリーYMCAが開設30周年を迎えた今年は、より多くの皆さんに来場していただける地域の祭りを目指しています。お楽しみ抽選番号付き前売りチケットは、絶賛販売中です。

日 9月16日(土) 16:00~20:00
場 ながみねファミリーYMCA(熊本市東区長嶺南)
問 TEL 096-385-0676

むさしYMCAフェスタ

今年のテーマは「笑顔とともに未来の夢へ」。空くじなしの抽選会に参加できる前売りバザーチケットは9月9日(土)販売開始です。むさしマルシェも同時開催!お楽しみに。

日 10月15日(日) 10:00~開会式/開会式後~14:00販売予定 場 むさしYMCA(合志市幾久富)
問 TEL 096-248-6334

前進祭

中央YMCAとYMCA学院が実施する学生主導のお祭りです。多彩な食バザーやゲームコーナーが自慢。メイン会場は広い体育館。天候にかかわらず家族揃って楽しめます。

日 10月29日(日) 10:30~15:00
場 中央YMCA(中央区新町)
問 TEL 096-353-6391

帯山まつり

今年はお祭り「帯西まつり」と同時開催!地域の皆さんと一緒に盛り上がります。YMCA学院日本語科の留学生による国際色豊かな食バザーは健在!ぜひご来場ください。

日 10月29日(日) 9:15~15:00(予定)
場 帯西コミュニティセンターグランド(東部YMCA横)、帯西小学校 問 TEL 096-382-6661



YMCA祭ではバザー出店品、抽選会賞品のご寄贈をお願いしています。ご協力いただける場合は、各YMCAにご連絡ください。

12月5日 Tuesday

市民クリスマス2017 高木慶子シスター講演会

クリスマス × 講演会

「苦しみの中にも、幸せを見出すために」と題して、シスターの高木慶子さんによる講演を開催します。益金は熊本地震復興支援活動などのために用いられます。

日 12月5日(火) 18:30開場/19:00開演 場 くまもと森都心プラザホール
チケット 大人1,500円/学生以下1,000円 ※全席自由/未就学児無料
チケット取扱い 熊本YMCA各施設 熊本YWCA ※9月20日(水)より取扱い開始
主催 市民クリスマス実行委員会
問 市民クリスマス実行委員会事務局 熊本YMCA TEL 096-353-6397

高木慶子さん 熊本県生まれ。上智大学グリーフケア研究所特任所長。「生と死を考える会全国協議会」会長。「兵庫・生と死を考える会」会長。一般社団法人グリーフケアパートナー理事。援助修道会会員。三十年来、ターミナル(終末期)にある人々のスピリチュアルケア、及び悲嘆にある人々のグリーフケアに携わる一方、学校教育現場で使用できる「生と死の教育」カリキュラムビデオを制作。全国的にテレビや講演会で活躍中。



日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 案 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

総主事のタラント Vol.40



いまを全力で生きる

私の父は今年9月に90歳になります。記憶も確かで気力も十分。しかし、近頃は体が思うようにならないもどかしさを口にします。今思えば、私は若いころから家を離れていたために「親が年老いていく」という感覚が乏しく、82歳で母が亡くなった時ようやく実感がわいたも

のです。日本老年学会と日本老年医学会は「高齢者は75歳以上」という見解を公表しました。「65~74歳の前期高齢者においては、心身の健康が保たれており、活発な社会活動が可能な人が大多数を占めている」といいます。労働市場でも65歳以上の働き手が急増して、今年1~3月の労働力人口を5年前と比べると、65歳以上では200万人増えています。私の知人にも70代で、まだまだ元気で活躍されている方が多くいらっしゃいます。

「ライフ・シフト~100年時代の人生戦略」(リンダ・グラットン等著)では、2007年生まれの人々の半数が何歳まで生き残るか、主要国の

予想が紹介されています。最長は日本で107歳です。今50歳未満の日本人は100年以上生きる時代を過ごすつもりでいたほうがいい。このことが仕事や社会のあり方を根本から変えると著者は述べています。

YMCAは社会環境の変化を見据えた活動を行っていく団体です。超高齢社会に必要なのは、青少年、つまりユースの存在です。社会変化に向き合い時代の課題にユースと共に取り組む時、個が成長しスモールコミュニティが形成され、ユースが社会を変える原動力となっていくのです。次代を担うユースが希望を持てる豊かな社会となるよう、共に歩んでいきたいものです。

talanton

R | E | P | O | R | T

[7月17日⇒ 8月8日]

野外活動 盲学校の子どもたちと共に ポニーキャンプ

7月21日(金)～22日(土)の1泊2日、阿蘇青少年交流の家にて熊本県立盲学校の子どもたちが参加するポニーキャンプを行いました。熊本YMCA学院の児童福祉教育科の学生がリーダーとしてサポートにつき、2日間を過ごしました。

はじめにプールに着くと、子どもたちは大はしゃぎ。リーダーとの距離もグッと縮まりました。夜はキャンドルの集いを実施。まずはどのようなものに火を付けるのか、手で触れて確認し、灯した後はリーダーたちによる歌やダンス、ゲームで楽しみました。

翌日は阿蘇の雄大な自然の中で草スキーやハン

モック、サッカーなどをし、ゆっくりとした時間を過ごしました。また、熊本ワイズメンズクラブの皆さんが、甘いスイカやぶどう、ゼリーなどの差し入れを持って訪問。とてもおいしくいただきました。

この2日間、子どもたちがたくさん笑顔を見せてくれたことを、とてもうれしく思います。目が不自由な子どもたちと過ごして感じたことは、「サポートしすぎない」ということ。彼ら彼女らには、一人でもできることがたくさんあるのだと気づかされ、リーダーたちも様々なことを学ぶことができました。

職員 下田奈央子



国際 平和な世界を願って 日米友情人形交流

1927年(昭和2年)、アメリカでの排日運動が過熱する中、両国の子どもたちの間に友情を結ぶことを目的に、アメリカから日本に約12,000体の人形が贈られました。この人形交流を呼びかけたのが、アメリカの宣教師で、熊本でも伝道にあたったシドニー・ギューリックです。その孫にあたり、約30年前から祖父の意思を継いで、人形交流に取り組んでいるギューリック三世夫妻が、7月下旬に熊本を訪問しました。

ギューリック三世夫妻の希望により、熊本地震で被害の大きかった益城町と御船町を慰問し、人形を贈呈。益城町木山仮設団地の自治会の祭にも参加しま

した。

また、約90年前に贈られた人形が現存する八代市の鏡小学校と宮原小学校を訪問。児童との交流の時間が持たれました。子どもたちからは「戦争中も人形を大切に守ってきた人がいると聞いてすごいと思った」、「学校の人形にこんな歴史があると聞いて、もっと知りたいと思った」などの感想が聞かれました。

これからも「平和な世界」を願うYMCAとして、歴史に学び、よりよい未来をつくることのできるような活動を続けていきたいと思います。

職員 中村賢次郎



ボランティア 香港から高校生が来熊 地震復興支援活動

7月17日(月)～21日(金)、香港中華YMCAから高校生18名と職員2名が熊本を訪れ、ワークキャンプを行いました。来熊目的は、被災地復興支援活動。未だ解体が進んでいない公民館や民家に赴き、瓦礫や荷物の搬出・仕分けなどを手伝えました。

学生たちは荷運びなどの慣れない作業に最初は戸惑っていましたが、作業が進むにつれ、コツを掴んだようで、連携プレーでスムーズに動けるようになっていました。暑い中での作業でしたが、明るい雰囲気順調に作業は進みました。合間には、地震で大きな被害を受けた阿蘇大橋付近を訪問、自然の脅威を目の

当たりにし、改めて自然の恐ろしさを痛感したようです。また日本の復興技術の高さにも驚いた様子でした。ワークの後には、それぞれホームステイ先のお家でホストファミリーとの時間を過ごし、様々な形で日本の生活を体験しました。最終日には、嘉島町の湧水公園やサントリービール工場を訪れ、熊本が誇る綺麗な水についても学ぶことができました。

学生からは、「ホストファミリーとの時間がとても楽しかった!ぜひまた来たい」との声が多く聞かれ、短いながらも充実したワークキャンプとなったようです。

職員 工藤瑛里菜



平和 世界のユースと共に平和を学ぶ 国際青少年平和セミナー

8月4日(金)～8日(火)、広島YMCA国際青少年平和セミナーに参加しました。日本、シンガポール、韓国、タイ、インドなど世界各地から来た約90名と共に平和について学び、平和記念式典に参列しました。

印象に残っていることのひとつが3歳の時に原爆によって被爆した箕牧智之さんのお話です。当時、蒸気機関車が主流だったため駅に行けば水があると考え、被爆した人たちは駅へ向かったそうです。駅に着くと焼けただけの皮膚に機油を塗り応急処置としていたと聞き、胸がとても痛くなりました。また、平和記念資料館には、思わず目を背けてしまうような写真もあり、人々の苦しみ伝わってきました。

ワークショップでは、セミナーで感じたことについて意見を交換。世界には様々な考え方があることを学びました。平和について考える中で、私たちのグループでは「誰に対しても優しく接し、友だちを多くつくるのが平和につながる」という結論に至りました。この気持ちを大切にしていきたいです。

5日間を通して、普段の生活がどれほど有難いことなのか改めて感じ、小さなことにも感謝しようと思えました。今回の学びを学生生活にも活かし、今まで以上に勉学に励みながら、ボランティア活動やリーダー活動にも積極的に参加していきます。

YMCA学院 医療事務情報管理科 2年生 ニノ文玲奈



Snap

【サマーキャンプ特集】

今年もたくさん子どもたちがYMCAサマーキャンプに参加しました。



海の上は最高!!



いざ、頂上へ...



火よ、大きくなれー!



とったぞ〜!



タマネギが目にしみるー



ふー。気持ちいいー



ちゃんと撮れてる?



ヒャー~~~~ッ

相模原障がい者施設殺傷事件から1年

19名が犠牲になり26名が重軽傷を負った「相模原障がい者施設殺傷事件」から一年が過ぎました。埼玉YMCA協会員で、事件が起きた津久井やまゆり園で2004年まで36年間勤務した太田顕さんからメッセージを寄せていただきました。



福祉を疎外する要因は ①制度の壁 ②環境の壁 ③心の壁 と言われています。神奈川県知事を務めた故長洲一二氏は、③心の壁を「最後に残る壁」と述べました。

やまゆり園の開所は1964年。当時、入所者と職員が外に出ると目をそらしていた地域の人たちも年月とともに暖かく寄り添うようになりました。一方で、私たちかつての職員は入所者とのふれあいを通して多くを学びました。

事件から一年経った今も「障がい者は生きていく意味がない」という被告の発言に同調する意見がネット上で飛び交っていると聞きます。だれもが持つ心の闇の部分が匿名性を帯びた異質な環境で表出しているのかもしれない。であればこそ、一人ひとりの自問自答と、それに打ち勝つための不断的な努力が併行して求められるのです。

全ての人は存在することに意味があり、全ての命はかけがえないものです。この事件を忘れず、風化させず、後世に継承することを19名の犠牲者に誓い、祈る日々を送っています。

太田顕(おた けん)さん
著書「一所懸命〜ある社会福祉公務労働者の思い〜」
「共に生きる社会を考える会」共同代表

わたしと聖句

マタイによる福音書7章12節

だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。

人にしてもらいたいように

昨年4月に熊本地震があり、私の働いている八代市もかなり揺れました。3年前の2014年に教会堂を新しく建てたこともあって、被害はほとんどありませんでしたが、被害のあった地域の情報を聞くと、心が痛みました。

私は22年前の1995年の阪神・淡路大震災で被災し、家を失った経験があります。その時は高校生でしたが、一瞬にして家を失い、これから自分の人生はどうなるのかと考えて、絶望したことを、今回思い出しました。

シャロンキリスト教会
上田 努

その時に助けてくれた周りの人々がいました。地震後すぐに、食べ物や水を持って来てくれた人がいました。テントをくれた人がいました。友人の家庭は、私が高校に通うために10か月間、居候させてくれました。あの時は本当に色々なことに困っていたので、「何か困ったことがあったら言ってね」と言われるより前に、何かで助けられることのありがたさを身に染みて感じました。

その経験から、妻の友人が熊本市に住んでいたため、地震後の4月19日に食物と飲物、またウェットティッシュなどの生活用品を届けました。とても喜んでいただきました。その時にその方のお子さんに「あなたが大きくなったら、他の人を助けてあげて」と言って帰って来ました。

キリストは、人にしてほしいと思うことは、自分もそのようにせよと教えています。私たちにできることは限られています。私たちができうる何かがあるなら、それをし続ける者になりたいと思います。



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2017年度基本聖句

ヘブライ人への手紙 13章5節
わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにしない。